

# 日漢協トピックス

## 大阪市で市民公開講座開催

2018年6月10日(日)大阪国際会議場5階 小ホールに於いて、  
第69回日本東洋医学会学術総会 市民公開講座が開催された。  
本講座は、日本東洋医学会と日漢協の共催により今年で18回目を迎えている。



【後山 尚久 先生】

講演に先立ち、学術総会会頭の後山尚久先生が挨拶に立たれ、  
産婦人科医としての漢方治療経験を基に、講演概要を紹介した。

次に、日漢協の渡邊喜久彦常務理事は、  
日漢協の概要、漢方の現状と課題  
および課題解決に向けた  
業界の取組について説明した。



【渡邊 喜久彦 常務理事】



【田中 邦雄先生】

座長の明治国際医療大学付属統合医療センター教授の田中邦雄先生から、  
講師の川嶋 浩一郎先生のプロフィールが紹介され  
講演会は始まった。

第69回 日本東洋医学会学術総会  
会頭：後山 尚久 (大阪医科大学健康科学クリニック 教授・所長)

**市民公開講座** 参加費 無料

2018年6/10日  
14:25~16:25 大阪国際会議場5階 小ホール [第2会場]  
〒534-0305 大阪市淀川区2-8-3-31 TEL: 06-4803-5566(代)

『東洋医学の活用で、  
子育てに「朝がきた」お話』  
～漢方による子育ての  
パラダイムシフトの提案～

田中 邦雄 先生  
川嶋 浩一郎 先生

主催：一般社団法人日本東洋医学会、日本漢方生薬製剤協会

申込方法：078202 漢方協会事務局  
http://convention.jtbcom.co.jp/69jsem/

講演は “東洋医学の活用で、子育てに「朝がきた」お話”  
～漢方による子育てのパラダイムシフトの提案～ と題して



小児神経科医として、漢方と西洋、双方の医療を実践してこられた経験から、漢方のすばらしい特徴や考え方を、日常生活に生かし、病気の治療に生かし、そして、子育てに生かすという幅広い内容のパラダイムシフトの提案があった。



【川嶋 浩一郎 先生】

「樹木の成長に喩えて、ベストの健康は漢方、子どもは本当に大事だから、成長して自立するまで、どこまでも優しく見守ってあげることが重要です」とのイントロがあり、講演に引き込まれた。

【第1部】“西洋医学にない全体を見る漢方のすばらしさ”

「西洋医学は病気をみる医学、漢方医学は健康をみる医学だから併用できるし、元気になるには心身相互の働きと気血水のバランスが大切だ」と述べた。気は胃腸の漢方で元気になり、血が滞る瘀血は慢性炎症そのもので、アレルギーや癌や老化の元凶で、瘀血につながる食習慣への警鐘を訴え、日本人は水を飲みすぎるとのお話も興味深かった。

【第2部】“子どもと家族の健康を支える日々の漢方”

「熱が出たら漢方、こじれたら胃腸がカギと、ウイルス感染への漢方エビデンスが、西洋医学ではお手上げの風邪治療へのパラダイムシフトになる」と述べた。

【第3部】“子どもの心と頭を良くする子育てに役立つ漢方”

最後に「漢方が子どもの発達障がいにも有用で、発達を促す手段となり、漢方の薬と考え方が、不安や恐怖の防衛本能の中枢である脳の扁桃体を鎮め、夢と希望の中枢である脳の前頭前野の発達を促す」と述べ、その漢方の考え方で、親が子に安心感を与える事の大切さを参加者に語り掛け、さらに「親の安心感は日本古来の神道的自然観や先祖崇拝から得られる」と締めくくった。

「親と漢方薬の二人三脚により、子どもの心と頭をドラマチックに成長させる」と、漢方を取り入れた育児の新たな可能性について言及した。

会場の隅々までいきわたる、はっきりとした口調での講演に、参加者はうなずきながら聞き入っていた。

「全体を通じて、幼い子どもを持つ親にとっては、大変興味深い内容が多く、

実際に、自分自身の子育てにも役立つものがたくさんあった」という充実した参加者の感想が寄せられていた。